

大気中のアスベスト測定

アスベストとは



クリソタイル原石（厚生労働省 HP より引用）

アスベスト（石綿）は、天然に存在する繊維状けい酸塩鉱物のうち6種類の鉱物（クリソタイル、クロシドライト、アモサイト、アンソフィライト、トレモライト、アクチノライト）で、アスペクト比（長さとの幅の比）が3以上のものと定義されています。

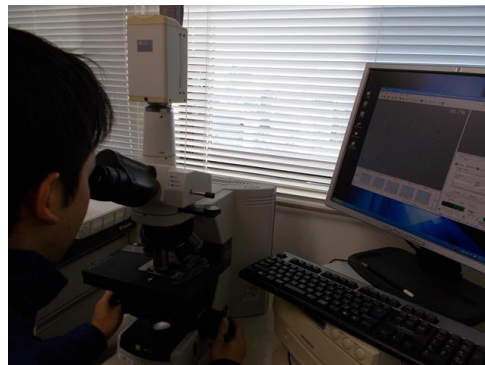
アスベストは、耐熱性、耐摩耗性、耐薬品性及び防音性などの特性を有し、安価であることから重宝されていましたが、アスベストを吸入することにより、肺がんをはじめとする重い病気を引き起こすことがわかり、現在ではその取り扱いが禁止されています。

解体等作業現場におけるアスベスト測定

1970年代から1980年代にわたって輸入されたアスベストの多くは、建材として建築物に多く使用されてきました。アスベストを使用した建築物の耐用年数が過ぎるなどして、解体・改修工事が施工される際に、アスベストが飛散するリスクがあります。

当センターでは、環境管理課、南部総合県民局及び西部総合県民局からの依頼に基づき、アスベスト含有建築物の解体等作業時に、作業場所周辺のアスベストの飛散状況を測定し、適正な作業が行われているかどうか確認しています。

平成28年度は、16施設で測定を実施しました。



一般大気環境におけるアスベスト測定



当センターでは、一般大気環境における大気中のアスベストも昭和63年から測定しています。平成28年度も、県内6地点で測定を行った結果、いずれの測定地点も低濃度であることが確認できました。

一般環境大気中のアスベスト濃度の環境基準は特に定められていませんが、大気汚染防止法に基づく「特定粉じん発生施設」の敷地境界基準（10本/L）と比較しても十分低く、本県の環境大気中アスベスト濃度は健康に影響を及ぼさない低濃度であると考えられます。

一般大気環境中におけるアスベスト濃度測定値推移については、徳島県環境管理課のホームページ <https://www.pref.tokushima.lg.jp/ippannokata/kurashi/shizen/2013042300159> で確認することができます。